

## 第15回地域創生・人口減少対策本部会議

日 時：令和5年3月27日（月）11：20～11：27

場 所：危機管理センター災害対策本部会議室

### 【鈴木副知事】

ただ今から、第15回地域創生・人口減少対策本部会議を開催します。

早速、報告事項「全庁的に共通する重要課題への部局横断的な取組」について、企画調整部長。

### 【企画調整部長】

少子高齢化や転出人口の超過など、本県を取り巻く急激な人口減少は、大変厳しい状況が続いております。我々職員一人一人が、これまで以上に現状に危機感を持ち、総合政策として進めていく必要があります。

地方創生・人口減少対策に係る個々の取組状況につきましては、秋頃に別途報告を予定しておりますが、今回は、新年度からの部局横断の新たな取組もあり、御報告するものです。

資料1-1を御覧ください。令和4年度の成果をまとめた全庁的に共通する重要課題への部局横断的な取組についてであります。

この取組は、部局長から担当職員に至るまで、関係する重要課題の推進をマネジメントしていくという経営的視点を持って、部局間連携での取組を進め成果を創出する意識付けを図ることを目指して令和3年度から始めたものであり、取り組むテーマも令和4年度から新たに追加した「地球温暖化防止」を含め、全6テーマとしました。

その際、本庁機関の取組だけでなく、同時に推進した各地方振興局の取組も対象とし、部局横断での意見交換も行いながら、県庁全体で成果の創出に努めました。

例えば、「健康長寿」につきましては、主に担当する保健福祉部による健康長寿の取組はもちろんですが、企画調整部における地域住民向けスポーツ体験講座「まなび舎Jヴィレッジ」の実施、土木部やいわき地方振興局における自転車を活用した健康づくりの喚起など、それぞれの事業目的の実現に加えて、全庁的な重要課題として「健康長寿」の推進を図る意識付けを行いながら実施しました。

「健康長寿」以外の取組についても、担当部局以外の部局がそれぞれ大所高所から全庁的な重要課題を意識して取り組んだところであり、県政を俯瞰的な視点で推進するための職員の意識付けに一定程度寄与できたものと考えております。

資料1-2を御覧ください。令和5年度におきましても、引き続き部局が連携して取り組む6テーマを設定し、ここに掲載する取組において全庁的に意識しながら進捗管理を行い、成果が創出できるよう、取り組んでまいります。

なお、年度当初からより連携を深め、更なる部局間連携による成果につながる推進体制とするため、当本部の下に設置されます幹事会の下にワーキンググループを新たに設置し、人口減少対策や本県への更なる移住・定住、関係人口

の創出・拡大に向けた事業を所管する関係課が集まって、虫の目で進めるそれぞれの事業を他己評価したり、全庁的な重要課題である移住・定住の推進などにそれぞれがどのような役割が果たせるか意見交換したりするなど、新たな試みとして関係課で重要課題を活発に議論して鳥や魚の目の視点を意識しやすくする場を設けてまいります。

各部局におかれましては、県庁全体で重要課題の解決に向けた成果が上げられるよう、相互に連携して取組を進めていただくとともに、それ以外の業務においても職員一人一人が俯瞰的な視点を大切にしながら創意工夫をこらして取り組むよう、ご尽力をお願いいたします。

説明は以上です。

**【鈴木副知事】**

ただ今の説明に関して、御意見等ありますか。よろしいですか。  
最後に、知事からお願いします。

**【知事】**

福島県の復興がいまだ途上にある中で、急激に進む人口減少や新型感染症、物価高騰、度重なる自然災害など、私たちは多くの課題や困難に直面しております。

加えて、厳しい財政状況や職員数も限られる状況にあっては、全庁的に共通する重要な課題に対して、部局間で連携して一丸となって課題解決に取り組むとともに、その成果を出すためには組織の総合力が必要です。

このため、自分の部局に関わる業務だけではなく、他部局の事業も含め、職員の皆さん一人一人が県政全体を俯瞰しながら、鳥の目を大切にし、自身の業務が総合計画のどこに紐付くのか、位置付けられるのか。どうすれば改善できるのかといった、当事者意識を持って取り組むことが重要であります。

総合計画2年目となる新年度は、これまでの成果を土台として、計画に掲げる将来の姿の実現に向け、取組を不断に「シンカ」させながら、県民の皆さんにその成果を実感いただけるよう、ひとつ、ひとつ、着実に進めていってください。

**【鈴木副知事】**

以上で、会議を閉じます。